

ペムブロリズマブ投与後に免疫関連有害事象と 2 回の偽増悪をきたした再発肺癌の 1 例

西野 亮平 小西 花恵 渡部 雅子 水本 正 北
口 聡一 菅原 文博

所属機関： 広島市立安佐市民病院呼吸器内科

肺扁平上皮癌術後再発の 80 歳男性。PD-L1 高発現のためペムブロリズマブ療法を開始したが、投与後発熱と呼吸困難、好酸球増多をきたし CT で再発病巣の増大と胸水を認めた。免疫関連有害事象を考え治療を中断しステロイド投与を開始した。2 ヶ月後再発病巣は縮小、胸水は消失し、病巣増大は偽増悪と判断しペムブロリズマブを再開した。しかしその後病巣の再増大を認め、真の進行が疑われたものの治療継続し、病巣は縮小した。免疫関連有害事象で治療中断する際 2 回偽増悪を起こした様に見える事があり、評価する際注意が必要である。

キーワード：免疫チェックポイント阻害薬、免疫関連有害事象、偽増悪

Immune checkpoint inhibitor (ICI), Immune-related adverse event (irAE), Pseudoprogession

ランニングタイトル：ICI 投与で irAE と 2 回偽増悪をした肺癌の 1 例